

■研究・実践の課題（テーマ）

食事調査法の検討

■主任研究者 下方 浩史

■共同研究者 徳留裕子、早瀬須美子、三ツ口千代菊、庄司吏香、  
中橋寿美枝、奥村圭子

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

[目的] 高齢者の食事調査を行う際、食物を調理前あるいは食べる前に、測って記録する秤量食事調査を本人・代理者に依頼するのは困難な場合が多い。そこで、食前・食後の料理の撮影ならびに簡単なメモを記録してもらい、栄養士がその写真とメモより、摂取食品および重量を推定する食事写真記録法（写真法）の妥当性および推定者間の誤差について検討する。

[方法] 5種類のモデル献立の写真を用意し、5名の栄養士が写真と簡単なメモをみて、食品名、重量を推定し記録する。  
推定、記録された献立の使用食品およびその重量・推定栄養素量について、秤量記録により得られたそれらと比較した。比較は食品の過誤および食品重量、栄養素量の平均値の比較、推定者(栄養士)の個人内・個人間誤差について調べ、写真法の妥当性について検討する。

[結果] 栄養士によるモデル献立の使用食品及びその重量の推定を完了できなかった。19年度に研究を継続する。